

平成29年

第1回仙北市議会定例会

市 政 報 告

仙 北 市

# 平成29年第1回仙北市議会定例会 市政報告

平成29年第1回仙北市議会定例会の開会にあたり、主要事項についてご報告します。

はじめに一般会計補正予算(第7号)についてです。

補正額は2,409万5千円の増額で、補正後の額は201億1,370万9千円となります。補正予算の大部分が事業の精算見込みによるものです。

主な追加事業は、障害者自立支援給付費、後期高齢者医療広域連合負担金、教育・保育施設給付金、病院事業会計補助金、畜産競争力強化対策整備事業費補助金、農地集積加速化基盤整備事業費、3D連携を基軸にした交流拡大事業費(東北観光復興対策交付金)、ユネスコ無形文化遺産魅力発信事業費(東北観光復興対策交付金)、大曲仙北広域市町村圏組合消防費負担金などです。

また、財政調整基金繰入金は1億2,500万円減額し、これにより平成28年度における財政調整基金からの繰入額は5億3,300万円、年度末の基金残高は23億7,373万1千円となる見込みです。

次に、各部局等の主要事項並びに諸般の状況をご報告します。

## 【総務部】

### ◇仙北市一般表彰について

2月4日、第16回白岩城址燈火祭において、白岩地区の地域活動団体「～白岩村おこし～プロジェクトS」に対し、仙北市表彰規則に基づき感謝状を贈呈しました。

同団体は、白岩地区の豊かな歴史資源を活かした行事の企画・開催、外国人留学生の招聘による体験型ツーリズムの推進など、多彩な地域活性化活動を実践し、白岩地区のみならず仙北市の地域活力向上に

多大な貢献をしています。

特に、白岩城址燈火祭をはじめとして地域行事に国際教養大学の留学生等、多くの外国人を受け入れる先駆的な取り組みは他地域の模範で、「小さな国際文化都市」を標榜する市にとって、誠に頼もしい存在です。団体の今後の更なる活躍と、こうした先進的な取り組みの輪が全市に広がることを期待しています。

#### ◇総合教育会議の開催について

2月1日、今年度第3回総合教育会議を開催しました。協議案件は、学校適正配置に関する提言書と、総合給食センターの基本計画についてです。

学校適正配置については、仙北市学校適正配置研究検討委員会から、昨年12月に提出された提言書の内容について協議しました。提言内容について、私も委員の皆様も、仙北市の現状を踏まえた適確な提言と認識をしました。今後、学校の統廃合等については教育委員会で一定の方針を定め、保護者や地域住民等関係の皆様にご丁寧な説明を行い、理解を深めていただくことが重要と考えます。

また、総合給食センター基本計画については、昨年12月に策定した計画書を細部にわたり確認の上協議を行いました。現状の課題を早急に改善するため、施設規模や事業手法等を結論付け、安全で安心な、おいしい給食を提供するため、早期の事業着手が望ましいことを確認しました。

#### ◇カラ吹き源泉事故の慰霊について

カラ吹き源泉事故の発生から2年を迎えようとしていますが、三回忌にあたり、3月18日、市の主催による慰霊式を執り行うことにしています。ご遺族の皆様をはじめ市議会議員の皆様にご通知しますので、ご参列いただきますようお願いいたします。

また、亡くなられた3人の方々への鎮魂の思いを後世に伝えていくために、アルパこまくさ周辺の適地に慰霊碑を建立したいと考えています。

所要の予算を計上していますのでご審議をお願いします。

なお、ご遺族の皆様から、温泉作業に従事する際に使用する防毒マスク10個を市へご寄附いただきました。ご遺族の皆様のご配慮に心から感謝を申し上げます。二度とこうした事故が起こらないよう、今後とも温泉作業の安全対策に万全を期して参ります。

#### ◇平成29年全国広報コンクールへの推薦決定について

このたび、広報せんぼく8月16日号で採用した表紙写真が平成29年全国広報コンクールに推薦されることになりました。これは、公益社団法人日本広報協会が毎年開催しているもので、県内の応募総数14作品から上位2作品が推薦されたものです。仙北市が応募した作品は「角館高校甲子園願い叶わず」です。全国高校野球選手権秋田大会の決勝戦で逆転負けを喫した瞬間の選手の表情を捉えていて、審査では「貴重な一瞬。仙北市民の無念さが伝わってくる」との高い評価です。

#### ◇秋田内陸線の一部運休について

秋田内陸線・小湊(こぶち)～阿仁合(あにあい)間の線路脇の土砂が、17日の夕方、幅約23メートル、高さ約20メートルにわたる崩落と地盤のひび割れが見つかったことから、阿仁前田～阿仁合間は終日運休し、バスなどによる代行輸送を行っています。また、その影響により一部の列車が運休となっています。

秋田内陸線では、現地を確認するとともに地盤状況の推移を見ながら、工法や作業開始時期の検討を行うとのことです。

市では、その経過についてホームページ等で随時お知らせしています。

#### ◇玉川ダム湖総合開発株式会社の解散手続きの進捗状況について

玉川ダム湖総合開発株式会社所有の建物で老朽化していた「二神館」については、昨年11月30日に解体工事を終了し、更地としています。また、出資金については、昨日、臨時取締役会を開催し、返還内容

について同意いただきましたので、民間の出資者には今年度内に出資額を返還する予定です。市の返還額については、平成29年7月頃開催する株主総会終了後、会社整理に必要な額を差し引いた額が返還されるため、新年度予算に計上しています。

なお、玉川ダム周辺施設の維持管理は、これまでどおり玉川ダム管理所及び市が発注して事業者を決定し実施します。今後も利用される方の利便性を損なうことがないよう対応します。

#### ◇「Sembokuドローンスクール」について

11月から実施している「Sembokuドローンスクール」は、全7回のスクールに延べ150人を超える受講者となりました。

小・中学生を対象とした講習会には、東光鉄工株式会社UAV事業部シニアマネージャー鳥潟與明(とりがたともあき)さん、農業部門には、ドローン・ジャパン株式会社 取締役会長 春原久徳(すのはらひさのり)さん、測量部門には、エアロセンス株式会社 技術開発部ソフトウェアエンジニア 真栄城朝弘(まえしろともひろ)さん、映像部門には、映像作家 イノマタトシさん、初心者・中級者向けには主任講師として株式会社skyer(スカイヤー)代表取締役 宇佐美孝太(うさみこうた)さんを迎え、著名な講師陣によるカリキュラムは大変好評でした。

映像部門に参加された皆様は、2月10日、上桧木内の紙風船上げ会場でドローンの撮影映像をお披露目しました。会場を訪れた地元の皆様や多くの観光客には、仙北市の魅力をドローンの視点で伝え、ドローンと紙風船上げのコラボレーションを楽しんでいただけたと感じています。ご協力いただいた地域の方々をはじめ、参加されたドローン関係の皆様は、心より御礼を申し上げます。

なお、当スクールをきっかけに株式会社skyer(スカイヤー)代表取締役 宇佐美孝太(うさみこうた)さんが主体となり、「秋田ドローンコミュニティ」というネットワークが立ち上がりました。現在150人を超える会員が加入しており、ドローンの練習会や競技用のドローンを組み立て実技講習会を独自に行い、ドローンを活用した事業アイデアをグループで出し

合ったり、ドローンの実運用に向けた企画会議「ドロンソン」の開催など、積極的な活動が定着しつつあります。

この「秋田ドローンコミュニティ」と、明日24日には、青柳議長にも立ち会いをお願いし、「近未来技術活用(ドローン)に関する連携協定」を締結することになっています。近未来技術を活用した人材育成やにぎわい創出、実証実験の実施支援並びにコミュニティ活動の活性化により、近未来技術を活用した夢のあるまちづくりの実現を図ることが目的です。

また、2月25日には秋田ドローンコミュニティが主体となり、都内で「仙北市でのドローン活用」をテーマに「第3回ドロンソン」が開催されます。近未来技術を活用した若者たちの動きは、「Sembokuドローンスクール」後も着実に拡大していますが、市民の皆様には引き続き現状をお伝えし、またご理解をいただきながら、ドローンの可能性の周知浸透と利用技術の普及に努めていきます。

#### ◇「第7回ロボットビジネス交流会」について

1月18日、埼玉県新都心ビジネス交流プラザで開催された「第7回ロボットビジネス交流会」で、担当職員が「仙北市におけるロボット関連技術による地方創生の現状と今後の展開」についての講演を行いました。また交流会にも出席し、埼玉県の他、近隣都県のロボット関連企業の経営者・技術者・金融機関等100人を超える皆様との情報交換も行いました。お話をお聞きいただいた数社の企業と、仙北市を実証フィールドとして検討していただく調整が始まっています。

#### ◇「仙北市近未来技術を活用した新たな産業づくり支援協議会」について

1月13日、「仙北市近未来技術を活用した新たな産業づくり支援協議会」第4回計画策定会議(最終回)で、仙北市が目指している未来像、これらを実現するための事業計画について、「全体計画案」の協議を行いました。この全体計画の具体的事業を進めるにあたり、事業創造の共通テーマとして、「人(企業)が集まる」「人(企業)が育つ」を掲げ、仙北市に

根付いた「実証サポート&企業誘致」をはじめとする10の具体的な事業テーマをまとめています。これらを着実に推進させるため、平成29年度地方創生推進交付金の申請準備を進めます。

#### ◇「第2回仙北市近未来産業創造研修会」について

昨年10月に田沢湖総合開発センターで開催した第1回目の「仙北市近未来産業創造研修会」に引き続き、第2回目の研修会を、1月25日から27日の3日間、同会場で開催しました。

初日は「最北端のドローン特区×日本初の産業づくり」と題し、講師に内閣府・地域活性化伝道師 株式会社うぶすな代表取締役・吉井靖(よしいやすし)さん、2日目は「首都圏と連携し、最先端ビジネスをつくる！～シティプロモーションと政策立案～」と題し、講師の経営コンサルタント地域連携コーディネーター・櫻井政人(さくらいまさと)さん、最終日は、「仙北市版ローカルベンチャーをつくる！～各地のトップランナーが持つ「展開力」を知る～」と題し、講師のNPO法人ETIC(エティック)理事事業統括ディレクター・山内幸治(やまうちこうじ)さんから、それぞれ熱の入った講義をいただきました。

日本を代表する講師3人による研修会に、市内外から延べ20人の参加者がいました。いずれも市内で起業を目指す意識の高い皆様だったことから、小規模ではあったものの成果は大きかったと感じています。

#### ◇仙北市近未来創造アドバイザーの委嘱について

2月14日、都内にて、牧浦土雅(まきうらどが)さんに近未来創造アドバイザーの委嘱状を交付しました。

牧浦さんは、主に海外で活動されている方で、東アフリカで国際協力機構と農民とをつなげるプロジェクトを牽引し、現在はIT教育サービスの世界展開に従事されています。2月21日に都内で開催された国家戦略特区諮問会議では、早速アドバイザーとして近未来技術について提言をされました。これまでの取り組みとして、仙北市で開催された「ドローンインパクトチャレンジアジアカップ2016」のご報告のほか、日本が技術

大国となり、世界をリードしていくために、ドローンなど近未来技術実証分野の促進を図ることが大事とし、英国が金融・IT分野で利用している「サンドボックス(事前規制を設けず、原則自由な事業活動を前提とする仕組み)」をすべての特区に適用すべきというものです。

牧浦さんと仙北市のつながりは、昨年開催した地方創生シンポジウムでのパネラー出演、またドローンレースに関する助言など、これまでも近未来技術に関連したアドバイス等をいただいています。

今後も市の産業育成及び発展につながる近未来技術実証実験をメインに活動及びアドバイスをいただく予定です。

#### ◇地域おこし協力隊について

平成27年度から既に2人が着任し、田沢出張所と農山村体験デザイン室を活動拠点に地域おこし活動を行っています。さらに2月1日付けで、新たに小林裕高(こばやしゆたか)さんが観光課に着任し、活動を始めています。

小林さんの職務は、誰でも安心して観光できるまちづくりを目指すユニバーサルツーリズムの推進です。また仙北市の情報発信力の向上、情報の整理、バリアフリーの強化など、田沢湖・角館観光連盟と連携しながら効果の発現に努力して欲しいと思っています。

なお、今年度数回にわたり継続募集している「秋田内陸縦貫鉄道活性化のための地域おこし協力隊員」は、現状で応募がない状況です。来年度に向け募集方針や手法を変更するなど検討したいと考えています。

#### ◇「ヘルスケアツーリズム推進検討会」について

2月9日、第3回検討委員会を開催し、平成29年度に事業を具現化する「仙北市版ヘルスケアツーリズム基本方針」を検討しました。温泉・医療・食材など特色ある地域資源を最大限に活かし、市民の健康増進及びヘルスケアツーリズムに関連する事業創出を推進するため、湯治文化を活かした医療や食、文化を市民の健康増進に役立て、温泉療法の確立や観光、健康産業創造をめざす、「仙北市次世代ヘルスケア産業

協議会」を立ち上げる道筋ができました。

この基本方針と協議会を基盤に、観光・健康・医療・介護・文化芸術・ICT企業等の総合的な新産業の創出を目指し、市民の健康増進とインバウンド対応をも含めた観光振興政策を展開します。この流れを財源的に担保するため、目下、平成29年度地方創生推進交付金の申請準備を進めています。

#### ◇移住・定住対策について

2月19日、市内の移住者やサポーター合わせて16人が一同に会し、初めてとなる「移住者交流会」を開催しました。ご縁があつて仙北市に移住された皆様の交流を図ることで、仙北市の魅力や移住者の本音、日頃の生活の中で感じていることなどを全員で共有できました。地元住民には気がつかない意外なお話や意見を頂戴する場面もありました。今後の移住対策の改善や情報提供に活かしたいと考えています。

#### ◇市総合行政ネットワークのセキュリティ強化について

一昨年から準備をしてきた「行政ネットワークのセキュリティ強化」は、秋田県セキュリティクラウドの稼働に伴い、仙北市においても、2月25日から一般事務系とインターネット系のネットワークを分離します。

このネットワーク分離は、個人情報情報の漏洩を徹底して防ぐために行うものです。今後はマイナンバー事務の本格運用も始まることから、個人情報情報の保護にあたっては、システムと人的の両面で慎重運用します。

#### ◇火災の発生について

12月25日午前7時25分頃、角館町中町地内で火災が発生し、木造一部2階建て住宅兼店舗約120平方メートルを焼損しました。また、隣接する木造一部2階建て貸事務所の壁の一部約2平方メートルを焼損しました。原因は調査中ですが、出火元は店舗内のダクトが起因しているようです。発生現場は住宅が密集した場所で、大火に拡大したり負傷者の発生を大変心配しました。しかし消防関係者の迅速な消火活動で負

傷者もなく、火災も最小限にとどめることができました。

また、1月4日午前8時頃、田沢湖卒田字柴倉地内で火災が発生し、木造一部2階建て住宅約60平方メートルを焼損しました。原因は調査中ですが、まきストーブの煙突が起因しているようです。この火災による負傷者の発生はありません。

さらに、2月20日午後3時30分頃、田沢湖生保内字男坂地内で火災が発生し、木材業者が管理する乾燥棟内でコンデンサー1基が焼損しました。従業員による消火活動により大事には至らず、負傷者もありませんでした。

#### ◇仙北市消防出初式について

1月6日、仙北市消防出初式を開催しました。当日は消防団員370名が角館武家屋敷通りから角館交流センターまで分列行進を行い、市民の皆様からも声援をいただくことができました。また当日、観閲式会場の角館庁舎前では、角館保育園と角館西保育園の園児60名などに、恒例の餅まきを楽しんでいただきました。

市民会館で開催した式典では、勤続40年以上の永年勤続章や功労章など多くの団員を表彰したほか、ご勇退された消防団員の方々や火災消火活動協力者へ感謝状の贈呈を行いました。

#### ◇雪下ろし作業事故の発生について

1月15日午前10時30分頃、西木町小山田地内で62歳の女性が自宅車庫の下屋にはしごを立てかけて雪下ろしをする中、はしごが後方に倒れ約2メートルの高さから地面へ転落し、右手首を骨折する作業事故が発生しました。

また、1月25日午前9時15分頃、田沢湖生保内地内で64歳の男性が隣家の屋根の雪下ろしのためにはしごを上っていたところ、足を滑らせ約3メートルの高さから地面へ転落、腰椎骨折の重傷を負いました。

市民の皆様には、雪下ろしや除雪作業時の安全対策に、十分ご留意をお願いします。

## 【市民福祉部】

### ◇国民健康保険の資格相違について

平成24年7月19日付けで、国民健康保険加入者から提出された世帯分離の届け出の受付けをした際、被保険者であることの確認、さらに届け出内容の確認について遺漏があったため、資格の異動処理が適切に行われず、国保の記録と実際の資格に相違が生じていることが判明しました。この影響により、元世帯主には分離した世帯員の資格を喪失しないまま国民健康保険税が賦課され続け、また分離後の新しい世帯主には課税されない状態が続いてしまいました。

双方の皆様には事情説明のうえ謝罪し、国民健康保険税については平成24年に遡り税額を更正することで承諾いただきました。

世帯員が減じた元世帯主には、還付の手続きにより平成29年1月30日に振込みを完了しました。また、新しい世帯主については、新たに課税した現年度分と過年度分が、平成29年2月2日付けで完納されたことを確認しました。

今後は、資格異動に伴う記録等の相違の発生を防止するため、窓口職員はじめ国保担当職員による届け出書類の内容確認を徹底していきます。

ご迷惑をおかけした皆様に、改めてお詫びを申し上げます。

### ◇災害時における福祉避難所の設置及び運営に関する協定締結について

仙北市地域防災計画に基づき、仙北市と3つの社会福祉法人6施設との間で、災害時における「福祉避難所の設置及び運営に関する協定」を3月まで各法人と締結します。福祉避難所は、身体等の状況が介護保険施設等へ入所するには至らない方で、災害時に一般の避難所生活で何らかの特別な配慮を必要とする方に対し、社会福祉施設等に設置し運営するものです。この協定締結により、災害時の専門的支援の強化が図られることとなります。

## ◇生活困窮者対策としてのフードドライブの開設について

生活困窮者対策の一つとして、「一般社団法人フードバンクあきた」と提携し、家庭で眠っている食料品を集める運動(フードドライブ)に着手しました。各地域センターや出張所、社会福祉協議会の3支所で2月の1ヶ月間試行的に行っています。食事に不自由されている方々への支援に活用するものです。秋田市にある「一般社団法人フードバンクあきた」へ一時集め、支援の必要な方には仙北市社会福祉協議会と連携し「仙北市自立相談応援センター」で支援します。このフードドライブ活動は今後も継続します。

## ◇認知症施策推進事業の取り組みについて

平成29年1月より、認知症地域支援推進員1名を包括支援センターに配置しました。この配置は、認知症予防及び認知症になっても安全・安心・幸せに暮らせる仙北市を目指すもので、市全体として認知症への理解や早期発見・早期受診の取り組みを推進できればと思います。

### 【観光商工部】

## ◇各種イベント・事業等について

1月1日、角館駅並びに角館駅前蔵で元旦恒例のお客様おもてなしイベントを行いました。当日は、角館駅に降りる方々に向け横断幕をかざし、「角館祭りのやま行事」に使用する曳山の3分の1モデルを展示するなど心ばかりのおもてなしでしたが、楽しんでいただけたと思います。駅前蔵で行った日本酒やお茶、漬け物等を振る舞う「ちょっぴりプレゼント」も好評でした。

この日、下り新幹線で降りた乗客数は270人で、内50人が外国人でした。乗客数は、前年と同じ位でしたが、外国人は30人の増加です。

2月1日は、みちのく三大桜名所プロモーション強化事業として、タイ王国から19名の観光業界のトップとマスコミがファムツアーで訪れています。仙北市に2日間滞在し、温泉・冬の行事・雪景色・郷土料理などを

味わい、とても満足された様子でした。皆様からは、母国からの送客を約束いただくことができました。

2月6日と7日は、国際教養大学とあきた芸術村で「サステイナブルツーリズム国際認証秋田フォーラム」が開催されました。サステイナブルとは、持続可能の意味です。私は、「持続可能な観光地とする大きな要因は人が住み続けることで、過疎対策や定住対策が欠かせない」と発表しました。これらを盛り込み、最後に「サステイナブル仙北市宣言」を採択して終了しました。

2月10日の上桧木内の紙風船上げには15,000人(昨年比4,000人増)、2月13日から14日の角館の火振りかまくらには10,000人(昨年比1,000人増)など、各地で多くの小正月行事が開催され、海外からの観光客も多数お迎えすることができました。

#### ◇台湾高雄市との交流事業について

2月8日から12日の日程で、仙北市国際交流協会の吉田裕幸会長、倉橋副市長、畠山教育部長の3人が台湾高雄市を訪問し、来年度の交流事業について協議を行ってきました。

この中で、田沢湖と澄清湖の姉妹湖交流では、姉妹湖を締結してから30周年を迎えることから、今回は澄清湖の皆様にお出でいただくこととしました。澄清湖を所管する台湾自来水公司の王明孝(ワン ミンシャオ) 處長からは10月下旬に訪問したいとお話があり、仙北市から改めて招待状を出させていただくことにしました。

また、田沢湖マラソンと高雄国際マラソンの交流については、高雄市の関係者およびランナーを、本年9月17日に開催される田沢湖マラソンに招待し、仙北市にお出でいただくことにしました。高雄市体育處の黄煜(ホァン ユー) 處長との懇談では、今後、お互いのマラソンに選手を派遣することで合意し、他のスポーツも含めて交流を進めていくことにしました。

#### ◇韓国アートツアーの児童交流について

1月23日、韓国の児童・生徒11人を含む画家や保護者、スタッフなど29人が仙北市を訪れました。これは秋田県が実施する韓国の美術作家と子ども達を招聘する事業で、市内農家民宿に滞在したほか、桧木内小学校を訪問し、児童と交流活動を行いました。

桧木内小学校は美術感覚を耕すことや豊かな感性や表現力を育むことを目的に、校内のいたるところに美術展示作品や造形作品を設置しています。当日は同校で日韓児童が一緒になり、壁画「四季の階段」の色塗りや、紙風船の絵付け体験を行いました。短い時間でしたが国を超えた相互交流のきっかけになったと思います。

#### ◇仙北市ナイトの開催について

1月26日、都内品川にある「あきた美彩館」で、観光と物産のPRイベント「仙北市ナイト」を開催しました。仙北市に来なければ口にできない郷土料理や地場産品を紹介し、「仙北市へ行ってみよう」と思っていただけのように、秋田県や株式会社アロマ田沢湖、遊楽3トピアそば会議からも協力をいただき実施が叶いました。また、角館工芸協同組合では樺細工の展示販売も行いました。もちろん物産即売会も行い、参加した方々には大変喜んでもらえました。仙北市には魅力ある観光資源と特産品が豊富で、それぞれが誘客力を持ったコンテンツです。今後も観光や農業、商工業など各業界・団体が協力し合い、相乗効果の得るようなPRの機会をつくっていきたいと思います。

#### ◇雇用状況について

県内経済は、個人消費面で持ち直しの動きが足踏み状態とされていますが、雇用情勢は一部不足感の強い業種もある中、全体的には改善基調にあります。ハローワーク角館管内の昨年12月末現在の有効求人倍率は1.29倍で全県値(11月末1.23倍)を僅かながら上回り、前年同期の0.93倍と比較しても増加しています。

平成29年3月卒業予定の高校生に対するハローワーク大曲(ハローワーク角館含む)の求人受理状況は、昨年12月現在で186事業所496

人です。前年同期比事業所数の168を上回る状況です。これは積極的に新規採用を検討している事業所が増えた証で、明るい兆しと受け止めています。

なお、大曲仙北地域の高校生の12月末の県内就職内定状況は、就職希望者が225人に対し211人で、内定率93.8パーセントとなっておりますが、ハローワークからは2月末頃まではほぼ100パーセントに近い内定率になるとお聞きしています。とは言っても仙北市内企業の雇用創出が優先課題で、平成29年度からはこれまでの雇用創出助成制度に加え、就職された方に対する助成金等の制度を新設する予定です。

#### ◇夏イチゴ栽培事業の経過について

株式会社ストロベリーファームが進める夏イチゴ「なつあかり」について、本年度の定植は春植えが5,000株、夏植えが1,500株で、全国的な天候不順の影響を若干は受けたものの、好調な販路開拓が支えになり、今期は目標を達成し標準以上の売上げ額に到達しました。

出荷量は1,100キログラムで、計画比106パーセントの実績です。全出荷量の95パーセントが産直販売（全国40店舗との業務用取引）で、その他は卸売市場へ出荷しています。適切な栽培・生育管理で病害虫の被害や温度管理にも問題はなく、販売単価は夏イチゴの標準値1キログラム当たり1,500円から2,000円を大きく上回ったようです。

今後は、これまでの蓄積してきた事業ノウハウを活かし、定植数を増やして生産量の拡大を図りたいとしています。また営業成績や販路拡大状況を勘案しながら事業採算性を追求し、栽培農家の確保なども併せて、第2次の事業展開を検討すると伺っています。

### 【農林部】

#### ◇薬用作物等産地化推進事業について

2月9日、薬用作物における国内産の普及振興及び仙北市での産地拠点化を図るため、株式会社ツムラ、仙北市薬草生産組合、仙北市との間で「薬用植物栽培の促進に関する連携覚書」を取り交わしました。今

後、3者が連携し協力し合うことで、市内農地を活用した薬用作物の実用栽培に向けた取り組みを加速しながら、安全で安心な高品質の薬用原料を安定供給し、農業所得の確保に繋がりたいと考えています。

#### ◇農業委員会の体制について

昨年4月1日、改正農業委員会法が施行され、農業委員会は許認可事務のほか、担い手への農地集積・集約化、耕作放棄地の発生防止や新規農業参入の促進に積極的に取り組むことが制度として位置づけられました。改正により農業委員の公選制は廃止となり、市長が議会の同意を得て任命する選任制になりました。また、主に合議体としての意志決定を行う農業委員とは別に、担当区域における農地等の利用の最適化推進のための現場活動を行う、農地利用最適化推進委員の設置が義務づけられました。

本市の農業委員の任期は、本年12月19日です。新体制に移行するための条例を本定例会に上程します。ご審議をよろしくお願いします。

### 【建設部】

#### ◇市道除雪の状況について

今期は現在のところ昨年が続いて降雪量が少ない状況です。しかし1月中旬は断続的な降雪が集中したこともあり、除雪車の出動回数が多くなっています。2月14日現在の平均出動日数は21日で、昨年の1.7倍です。

今後も降雪・積雪状況を注視し、市民生活の利便性を損なうことのないよう、除排雪対応に取り組めます。

### 【医療局】

#### ◇市立角館総合病院改築事業について

市立角館総合病院改築事業は、本体工事が2月15日に完成し、引き渡しを受けています。今後は外構工事と医療機器の搬入及び移転作業を実施し、開院日を4月1日、外来診療を4月3日開始に向け準備を進

めます。また、竣工式は3月19日、市民の皆様への内覧会は3月25日と26日の2日間を予定しています。

移転作業に伴い、3月29日から4月2日まで5日間(土日含む)外来診療を休止します。救急診療等も3月28日午後5時より4月4日午前8時30分まで受け入れが困難となります。この間は他の救急病院へ救急患者の受け入れを依頼しています。

なお、病院経営については、新病院の機能を生かした、地域における医療ニーズへの対応、収益性・事業性の確保に努め、医療サービスの質の向上はもちろん、信頼される病院を火の玉となって目指します。